

山口県の 当直レポート

現場での経験値が大きくアップするのが当直 /

ここでは山口県の15の臨床研修病院の
当直についてピックアップ！
当直体制や研修医の役割などを
チェックしましょう！！



2 周東総合病院

当直体制	指導医1名、研修医1名
当直回数(月平均)	4回
当直時の患者数	10~15人
当直手当	日直:20,000円/回、当直:20,000円/回 副直:10,000円/回

- **研修医の役割** 救急外来の日当直。研修科の指導医の日当直日に、指導医のもと、副直医として勤務。
- **指導医からのフィードバック** 基本的に直後に口頭でフィードバックを行う。対応・診断・治療法について、十分ではないところや間違いを指摘して指導する。
- **当直で身に付く手技・知識** 急患対応に必要な基本的な知識や循環確保・気管内挿管・皮膚縫合等の手技。

4 山口県立総合医療センター

当直体制	研修医1年目1名、2年目1名、内科指導医1名 (原則として初期研修医は内科系疾患のみ診療)
当直回数(月平均)	3~4回
当直時の患者数	40人
当直手当	21,000円/回 別途時間外手当を支給

- **研修医の役割** 救急患者へのファーストタッチ、問診、診察、検査オーダーなど。
- **指導医からのフィードバック** Walk-in症例は問診・身体所見の後にアセスメントとプランを立てて指導医に相談、その後の診療を行う。救急搬送症例は指導医とともに問診や身体所見を取り、一緒にアセスメント等を行う。救急受診患者は、翌朝に救急専門医が画像や検査結果を確認し、見逃した所見や対応について個別に指導することも。

6 総合病院 山口赤十字病院

当直体制	指導医2名、研修医1~2名
当直回数(月平均)	4回
当直時の患者数	10~20人程度
当直手当	20,000円+実績分/回

- **研修医の役割** 上級医の指導のもと副当直に入り、ファーストタッチ、トリアージ、検査オーダー、処置などを行う。
- **指導医からのフィードバック** 当直の場で足りなかったことなどを教えてもらう。必要ならば後日カンファレンス形式で症例検討し、フィードバックする。
- **当直で身に付く手技・知識** 救急患者への一通りの必要な検査や処置。

1 岩国医療センター

当直体制	指導医1名、研修医1名で内科を主に担当(土日は内科、外科に分かれ、指導医1名、研修医1名で日直/宿直をそれぞれ担当)
当直回数(月平均)	3回
当直時の患者数	約30人
当直手当	1年目、2年目共に 20,000円/月(実労働時間追加で加算)

- **研修医の役割** 救急外来での宿日直業務。平日は研修医2名と内科・外科系の指導医各1名、休日は研修医2名と指導医各1名。ファーストタッチとして、ある程度の診察や検査を行う。
- **指導医からのフィードバック** 救急時が落ち着いた時や当直終了時に必ず振り返りを行う。

3 徳山中央病院

当直体制	内科当直指導医1名、外科当直指導医1名、 研修医1年目、2年目各1名(当直時 副直1名 17:30~22:00、土日祝日直のみ研修医1年 目2名、2年目1名)
当直回数(月平均)	3~4回
当直時の患者数	50人
当直手当	日直:1年次 38,880円/回、2年次 42,016円/回 当直:1年次 50,400円/回、2年次 54,462円/回

- **研修医の役割** 救急外来日当直。1年・2年次研修医各1名が内科系当直指導医、外科系当直指導医のもと勤務。研修医が全てファーストタッチを行う。
- **指導医からのフィードバック** 救急車症例と入院症例を毎朝救急モーニングカンファレンスで発表し、救急科指導医とディスカッション。研修医は自身の当直時以外でも朝カンファに参加するので、珍しい症例も疑似体験できる。

5 済生会山口総合病院

当直体制	指導医2名、研修医2名
当直回数(月平均)	3~4回
当直時の患者数	20人
当直手当	20,500円/回~21,700円/回 (救急体制等による)

- **研修医の役割** 患者さんへのファーストタッチなど。
- **指導医からのフィードバック** ファーストタッチ後、報告時にディスカッションを行って方針を決定。患者が帰った後、または後日に相談という形でフィードバックを実施する。
- **当直で身に付く手技・知識** 心電図、MRI、CTなどの読み方、挿管。

7 小郡第一総合病院

当直体制	指導医2名、研修医1名
当直回数(月平均)	2回程度(二次救急当番日において)
当直時の患者数	15人程度
当直手当	20,000円/回

- **研修医の役割** 指導医の下での診察など、ファーストタッチを行う。
- **指導医からのフィードバック** 指導医がマンツーマンで指導し、その都度指導医が疑問に対し答える。必要であれば後日症例検討も行う。
- **当直で身に付く手技・知識** 救急患者に対する初期・基本的な検査及び処置。